

生麦中だより

令和4年(2022) 5月【2号】

「互いを認め合い幸せをつくる」

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/namamugi/>

「学習意欲を高めるために」

～自分で決める・自分で振り返る～

副校長 森 康昭

今年度がスタートして一か月が経ちました。感染症対策をしながらの生活は続いています。今年度はまん延防止等重点措置のような行動制限はなく、部活動の大会等も行われています。また、学校行事では4月に授業参観や学級懇談会、5月にはカリキュラム説明会がありました。その際には多くの保護者の皆様にご参加いただきまして、ありがとうございました。今のところ行事等が行えているのはよいことですが、これから体育祭や風歌祭、修学旅行や校外学習に向けての準備も始まっていくことを考えると、生徒のみなさんにとってはやるべきことがとても多い月になっていくかもしれません。

よく「文武両道」という言葉を耳にしますが、中学生の場合、勉強と部活動や習い事、その他の委員会活動などを両立させていくことがそれにあたります。予選があり勝ち進んでいく部活動の大会や発表会、年に1度の行事はおのずと頑張れるかもしれませんが、そんな中で中学生の本業である授業や定期テストに向けての学習において「学習意欲」をどのように維持していくかがとても難しいところです。

そこで今回は、「学習意欲をどのように高めていくか」ということについて少し書かせていただきます。以前、私自身が教員として一年間この「学習意欲」をテーマに横浜市の研究員をしていた時の話になります。当時社会科の教員として授業を行っていく中で、「中学校の勉強は楽しみだが難しそうだ」「覚えることが多いから大変だ」と感じている新入生の1年生が、どうすれば意欲的に学習に取り組むことができるか、という考えから始まったことです。

方法としては、生徒の学習意識を一年間にわたり調査・分析していくために年度初めに仮説を立て、自分の中学校の1年生と学区の小学6年生にアンケートの協力を得たり、横浜市学力・学習状況調査結果を分析したりしながら授業を進めていきました。そこから分かったことは「見通しと振り返り」を充実させることで、学びが主体的となり、学習意欲は高まるということです。具体的に言うと「見通し」は、授業の目標をよく理解して、それに対して自分のねらいを設定したり、予測を立てたりすることです。「振り返り」は、自分のねらいに対して自分で「何が身に付いたのか(できたのか)」を確認しながら、学び得た学習内容や新たな疑問等を記入したり、次に向けて学び方を見直したりすることです。

そもそも「学習意欲」とは、「知りたい・分かってほしい」という知的好奇心と、「自分で決めて学習を実行し、目標を実現したい」という欲求があり、後者がここで言う「見通しと振り返り」に関係してきます。学習意欲に関する様々な専門書や論文を読みましたが、心理学の分野でも学習意欲を高めるためには、自己の興味や関心を基に自分で決定したり、選択したりすることの重要性が述べられています。簡単に言えば「自分で考えて自分で決める」ような『自己決定』がとても大切です。勉強以外のことにおいても「何をどこまでどのように頑張るのか」を自分で決めることで意欲が高まり、結果が出たあとに「自分の中で何が身に付いたのか(どこまでできたのか)」をしっかりと振り返ることで、自分の成長を実感して自己肯定感も向上していきます。

見通しと振り返りについては、生麦中学校の教育活動の重要なキーワードである『自立のための基礎力』(想像する力・やりとげる力)にも含まれていることで、中学校の3年間だけでなく生涯にわたって生きてはたらく力となります。日頃から「自分で決める・自分で振り返る」を意識しながら、試練の多い5月を乗り切って、一人ひとりの中学校生活を充実させてほしいです。

地震発生想定の避難訓練

5月2日(月)本年度最初の全校避難訓練を実施しました。

昨年度までは、感染拡大防止の観点から全校生徒一斉に行う避難訓練ではなく、学年別で避難経路を確認したり、避難したりする訓練形式で実施していました。

訓練は、サイレンと地震発生の緊急放送が入り、各担任の指導で机の下にもぐり、揺れが収まったという緊急放送、避難放送指示で避難するという形式で行われました。

素晴らしいことは、3年生・2年生・1年生の全生徒が命を守る行動を実践した訓練ができたことです。

放送が入り、担任の指導で机の下に低い姿勢を取る場面では、頭を守る姿勢を1~3年生どのクラスでも静かにそして素早く実践していました。避難放送指示からグラウンドに約700名が集合するまでに4分11秒という時間で全員の安全が確認できました。

訓練は、災害が発生しても慌てず速やかに自分や人の命を守るために行動し、災害で起こる被害を最小限に抑えることを目的にしています

世界の地震の約10%が日本やその周辺で起こっています。災害による被害をできるだけ少なくするには、一人一人が自ら取り組む「自助」、地域や身近にいる人同士が助け合って取り組む「共助」、国や地方公共団体などが取り組む「公助」が重要とされていますが、その中でも基本となるのが、「自助」、一人一人が自分の身の安全を守ることです。

特に災害が発生したときは、まず、自分が無事であることが最も重要です。



今回の避難訓練では、SHAKE OUT(地震を振り払う)訓練として、「まず低く、頭を守り、動かない」を取り入れ、地震発生時の激しい揺れに襲われることや落下物から自分の身を守ることを学びました。

繰り返しになりますが、災害による被害をできるだけ少なくするために一人一人が自ら取り組む「自助」について、命を守ること、まもる命について、考えることをお願いします。

学校図書館への図書の寄贈

市立学校全校に学校図書館へ図書寄贈(写真)がありました。

東京2020オリンピック・パラリンピック開催が延期され、社会全体が「スポーツの魅力」「スポーツの役割」を見直すきっかけとなりました。

そのような中、オリパラアスリートたちは、「今、アスリートにできることは何か」「アスリートの価値とは何か」今

まで応援して下さった方々に「恩返しできることは何か」を考え、「つなぐ」という声にしたのがこの図書です。

54名のアスリートが自分と向き合い、どのように困難を乗り越えてきたか、困難が立ちはだかった時、アスリートの経験がそと、皆さんの背中を押してくれると思います。

(本書より) ◎報われない努力はあるかもしれないけれど、無駄な努力はない。真剣な努力は、必ず自身の成長につながるし、のちに生きる努力にもなる。本気のチャレンジは絶対自分に返ってくると思います。

◆野村忠弘 柔道オリンピック3連覇アトランタ・シドニー・アテネ



各相談窓口について

令和4年度の各相談窓口について、下記のようにお知らせいたします。

令和4年度

- ◆「セクシャルハラスメント相談窓口」
生徒担当：養護教諭 米田さきえ
教職員担当：副校長 森 康昭
- ◆「学校生活等全般に関わる相談窓口」
生徒指導専任教諭 関 聡
- ◆「学校カウンセラー」
加藤 美奈(毎週木曜日：来校)
Tel 045-581-3490(相談室直通)
- ◆「スクールソーシャルワーカー(SSW)」
梨本 桂子(必要に応じて)

*一人で悩まないで・・・

*一人で抱え込まない・・・

◆生麦中学校教職員は、一緒に考え、相談を行います。